



近畿地方整備局 紀南河川国道事務所	配布日時	平成27年8月7日 14時00分
資料配布		

件名	一般国道169号 <small>おくどろ</small> 奥漣道路Ⅱ期 9月13日（日）に全線開通します！ ～信頼性の高い交通路を確保、地域の消防・救急体制の充実に貢献～
----	--

概要	<p><small>おくどろ</small> ○奥漣道路Ⅱ期 (和歌山県新宮市熊野川町玉置口～九重間 <small>しんぐう くまのがわちようたまきぐち くじゅう</small> 延長：5.2km) が、 平成27年9月13日（日）15時に開通します。</p> <p>○開通に先立ち、地元関係者の方々をお招きし、開通式典を 平成27年9月13日（日）10時30分より開催致します。</p> <p>○開通式典の詳細については、後日お知らせします。</p> <p><u>主な整備効果</u></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>■異常気象時においても信頼性の高い交通路が確保されます。</p><p>■奥漣道路（Ⅱ期）の整備が地域の消防・救急体制の充実に貢献しています。</p></div>
----	--

取り扱い	—
------	---

配布場所	大手前記者クラブ，近畿建設記者クラブ， 和歌山県政記者クラブ，和歌山県地方新聞記者クラブ 和歌山県政放送記者クラブ，新宮中央記者会，新宮記者クラブ， 奈良県政・経済記者クラブ
------	--

問合せ先	国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所 副 所 長 <small>よしむら ひでじ</small> 吉村 英二 調査第二課長 <small>おがわ ひろき</small> 小川 裕樹 TEL 0739-22-4564（代表）
------	---

おくどろ
奥漣道路（Ⅱ期）
（和歌山^{しんぐう}県新宮市熊野川町玉置口^{くまのがわちようたまきぐち}～九重^{くじゅう}）の開通について

【事業概要】

おくどろ奥漣道路（Ⅱ期）は、異常気象時通行規制区間の解除と、幅員狭小・線形不良区間における問題を解消し、地域間交通・日常生活の利便性向上を主な目的とした道路です。

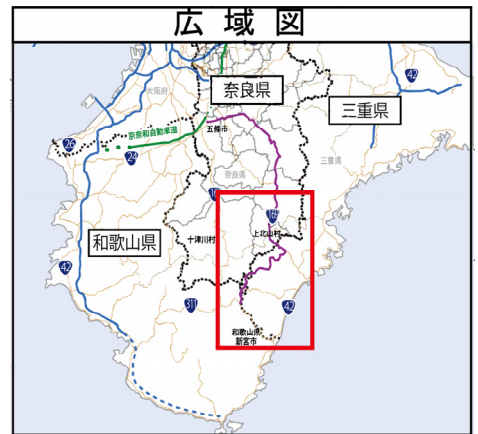
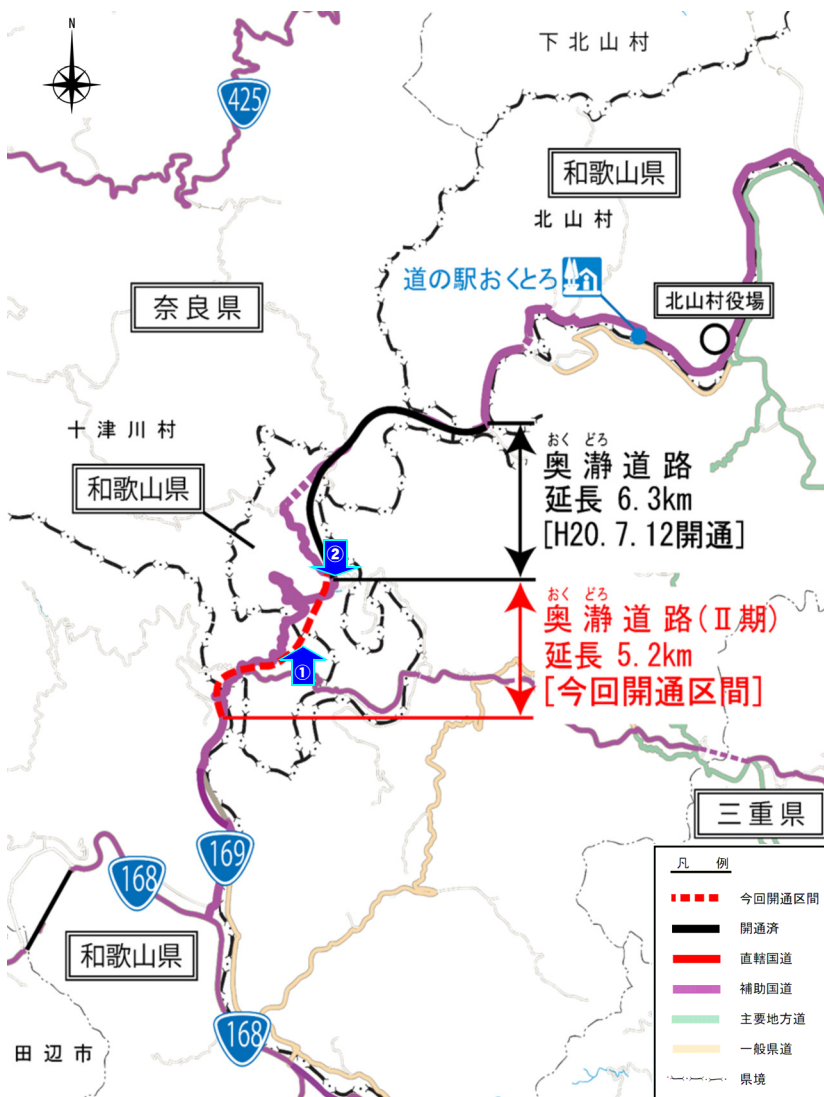
平成20年には、北山村～新宮市熊野川町玉置口間が開通しており、北山村の異常気象時通行規制区間の解除や線形不良・狭隘区間が解消しています。

この度、おくどろ奥漣道路（Ⅱ期）（延長：5.2km）が、開通することになりました。

開通に先立ち、地元関係者の方々をお招きし、開通式典を平成27年9月13日（日）10時30分より、開催致します。

開通日時：平成27年9月13日（日）15時00分
 開通区間：和歌山県新宮市熊野川町玉置口～九重
 延長：5.2km

【路線概要】



■今回開通区間の現況写真

おおほら
【①大洞地区】



たまきぐち
【②玉置口地区】



信頼性の高い交通路を確保！

◇奥漕道路(Ⅱ期)整備区間の国道169号では過去10年間に災害等による通行止めが6回(368日相当)発生。

◇奥漕道路(Ⅱ期)の開通により、異常気象時においても信頼性の高い交通路が確保され、安定した地域間交通を確保。

●現道区間(国道169号)で通行止が発生した際の迂回



■今回開通区間の現況写真(竹筒地区)



●当該地域の土砂崩落・降雨規制による通行止め

奥漕道路(Ⅱ期) 5.2km



(例)玉置口(新宮市飛地)～新宮市間の所要時間

現道利用時 64分(約36km)
迂回路利用時 112分(約69km)
※国道利用時

土砂崩落箇所



過去10年間の国道169号の通行止

番号	発生年月日	内容	通行止時間
1	H20.01.21	土砂崩落	4時間30分
2	H21.11.15	土砂崩落	104時間50分
3	H23.07.19	土砂崩落	8646時間20分
4	H24.06.16	土砂崩落	13時間30分
5	H24.07.09	土砂崩落	25時間45分
6	H24.09.30	土砂崩落	18時間30分
合計			8813時間25分

※H16～H19、H25、H26は通行止めの発生はなし

異常気象時通行規制区間

連続雨量 180mm
時間雨量 50mm
で通行止め

異常気象時通行規制区間

連続雨量 180mm
時間雨量 50mm
で通行止め

凡例

- 平成20年度 1回
- 平成21年度 1回
- 平成23年度 1回
- 平成24年度 3回

地域の消防・救急体制の充実に貢献！

- ◇開通済みの奥漣道路沿線の北山村には消防署が無いため、消防・救急体制の不足が課題。
- ◇奥漣道路(Ⅱ期)の開通により、北山村～熊野川消防出張所の所要時間が短縮されることが後押しとなり、新宮市と消防の広域連携体制を構築。
- ◇単独整備と比較し、初期投資額が約6割、年間維持費が約7割のコストで、消防・救急体制の充実が図られ課題が解消。

●北山村から新宮市立医療センターの搬送状況



●道路整備が広域連携による中山間地域の消防救急体制強化を後押し

- 北山村には救急車はなく、村職員たちが「患者輸送車」で搬送。
- 消火活動は村にあるポンプ車など3台で消防団員と職員が協力して実施。

道路整備によりアクセス性が向上
➤ 約15分短縮
(熊野川消防出張所～北山村)



▲患者輸送車

- 奥漣道路(Ⅱ期)整備後は、北山村だけでは対応できない救急や火災に対応可能となり、緊急時には新宮消防本部からの応援等も可能。

●コストを抑えて消防救急体制が充実

整備形態	初期投資額	年間維持費
北山村 単独整備※	約9,500万円 施設建設 救急車購入	約1億円 人件費 施設維持管理費
	▲約6,000万円 (約64%減)	▲約7,500万円 (約75%減)
新宮市へ委託	約3,400万円 消防施設拡充	約2,500万円 消防業務委託費

※北山村試算結果(消防車は現在村にある車両を流用)



消防事務の委託に関する協議書に調印して握手を交わす田岡新宮市長(左)と奥田北山村長(右)
(平成27年4月6日 新宮市仮庁舎にて)